

## 平成29年度 第1回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年7月7日(金) 午前9時00分 開会  
午前10時50分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者  
・町長 佐野 和広           ・教育長 渡辺 拓雄           ・教育長職務代理者 望月 恵美  
・教育委員 入月 一巳       ・教育委員 四條 勉           ・教育委員 芦澤 和彦
- 4 事務局等の出席者  
町長部局 総務課長 望月 哲也  
教育委員会事務局  
生涯学習課長 梶原 猛           学校教育課長 市川 隆
- 5 協議事項  
(1) 小学校適正配置について  
(2) 中高連携について  
(3) その他
- 6 議事経過の概要  
次のとおり

### 1 開会 望月恵美教育長職務代理者

本年度第1回目、この制度がスタートして通算7回目の会議となります。

今年度は小学校の適正配置、中高連携という大きな動きがあると認識しています。特に小学校の適正配置に関しては、多くの町民が関心を示しています。どのような結果になっても100%の同意を得ることは不可能ですが、一人でも多くの方に納得していただけるよう議論を深めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

### 2 町長あいさつ

教育懇談会のまとめを読ませていただきましたが、質問に対する教育委員会の答えが一貫しており、出席された方々に納得していただくという意味では良かったと思ひます。参加総数275人は、町内有権者の3～3.5%程度にあたり、私の予想を下回る結果となりました。答申が出された時はいろいろなご意見があったわけですが、時間が経つにつれて関心を持つ人が減ってきたのではないかと思ひます。いただいた意見からは、熊本県・大分県の震災のこともありましようが、防災ということに対して非常に関心をお持ちだということを感じました。避難所機能などをからめたご意見が多かったような気がいたします。今後の生かし方が課題になってくると思ひます。

そんなことで本日は活発なご意見が出されると思ひますが、よろしくお願ひいたします。

### 3 教育長あいさつ

本日が第1回会議となります。今年度は小学校適正配置に関する地区懇談会の終了を待つ必要があったため、例年より開催時期が遅れました。この懇談会は、5月18日の本郷区から始まりまして、6月25日の文京区で終了しました。本日は、そのまとめが一つ目の議題となります。どのような意見が傾向として出たのか、地区ごとの特徴はどのようなかといったことについて、皆さんでまずは共通確認をしていただきたいと思います。さらには、今後どのような見通しを持って、どのような計画で進めて行くか確認していければと思っています。

二つ目の議題は、中高連携に関する問題です。今後どのように県に対応していくかということが議題になってくるわけですが、県が示すロードマップによりますと、年度内に結論を出す意向のようです。当然、そのためには県教委・町教委の間で様々な取り決めが必要になってきますが、そうした事態を見越した対応を今からしておくことが大事になると思っています。

これから先、今年の秋から冬にかけては教育行政において大きな決断を迫られる時期を迎えるという共通認識に立っていただいて、二つのテーマが安心できる着地点を確保できるよう議論を深めていただきたいと思います。

先の話になりますが、第2回、第3回会議においても、今年は大きなテーマを背負っておりますので本日のテーマを引き続き議題とする考えです。よろしくお願いいたします。

### 4 議事

#### (1) 小学校適正配置について

(事務局) 結果について概要を説明。

(教育長) 共通認識を深めるため、皆様からご意見ご質問をいただきます。

(町長) 結論ありきではないかというご意見がありました。この時期に来たら、私はそれで良いと思っています。これだけ時間をかけているわけですから、これからは各区から出された不安要素について、それをどう解消していくかに重点を置いていった方が話が進められるのではないのでしょうか。反対意見はあるでしょうが、決められない行政ではないと思っています。

(教育長) 統合時期についての意見も多かったようです。事務局説明願います。

(事務局) 統合時期を早めるべきだというご意見をいただきました。万沢小学校は既に過小規模校となっているのに統合を5年後としているが、時間をかけすぎではないかといったご意見がありました。また、睦合・栄小学校につきましても10年後でなく、もっと早く統合すべきだといったご意見をいただきました。ただ、睦合・栄小学校の統合につきましても、栄小学校がまだ過小規模校になっていないため、すぐに統合する必要がないこと、今後の減少度合により統合の時期が早まる可能性があることを説明させていただきました。

(教育長) 統合時期が迫っている地区では、他地区と違った意見や反論があるようですが、町全体を一つにまとめていくことは難しいことです。しかし、これまでの積み上げを考

えると、理解を得る段階から結論を出していく段階に来ていると考えます。それも含めて、地域の声についてどう考えたらよいのかといったご指摘や取り上げてみたい意見がありましたらご発言ください。

(四條委員) 4 小学校を 1 小学校に統合すべきという意見が多くの方から出されているようです。それに対する回答は一貫して小学校低学年、特に 1 年生のバス通学負担が大きいという内容でした。また、部分的に 2 小学校とする答申・具申書に沿った形で進めているといった回答がありました。

現状、栄小学校では十島区の児童が 10 分かけてバス通学しており、睦合小学校では中野・成島区の児童が 40～60 分かけて徒歩通学しています。低学年児童にはかなりの負担になっていますが、教育委員会の姿勢は通学の負担を極力少なくするために 2 校で進めたいという捉え方で間違いありませんか。

(教育長) 通学の負担を減らすことと、2 町が合併してできた広いエリアの町であるためのバランスを考えました。

(事務局) 人口が減少する推計があるわけですが、町の進めている少子化対策が実を結んでいくことを前提に、旧町に各 1 校という基本構想に沿った形で進めさせていただきたいと説明させていただきました。

(四條委員) 平成 38 年度までは、この具申内容で統合を進めることはわかりますが、その先については未定として捉えてよいのでしょうか。それとも更なる統合はしないということでしょうか。

事務局が当初示した資料には、国立社会保障人口問題研究所（社人研）による年少人口推計があり、平成 47 年は 362 人でした。今紹介されている推計は、町の総合戦略の目標が達成された場合のもので 613 人です。確率的には社人研推計の 362 人になる可能性の方が高いのではないかと思います。そうすると年間出生数は二十数名となり、2 校をどうするかという議論が出てくるはずですよ。

今ここでそういったことを考えておくべきか否か、確認しておく必要があると思います。もし、考えておくべきであるという判断がなされるのであれば、今の段階で 1 校というものをきちっと議論してもよいのではないかと考えます。

(教育長) 社人研推計と町の推計を併記することはダブルスタンダードになり、町の計画に基づいた数字を用いるべきであることから、社人研推計を削除しました。町の総合戦略による推計では、1 学年四十数名となります。

その先のことを考えるかということについて、何かご意見ありますか。

(芦澤委員) 小学校の統合は通学の距離と体力を考慮するのですが、今はバスを利用するのでこの原則が当てはまらない場合があります。確かに 20 年、30 年後のことはわかりませんが、当面 2 校で切磋琢磨させながら中学校に子供を送り出すという教育委員会の合意が基本になると思います。

中学校の統合時には、まず富河・万沢中学校を統合する案が出ましたが、データ的に 5 年後には再統合の議論が出てくるのが明らかになっていたため、また南部中学校が整備されていたため、3 校を 1 つにすることになりました。

ここでの議論は、確認どおり当面 2 校で進めるべきだと思います。この先児童数が減

ってくれば1校にする意見が出てくるかもしれませんが、そういった意見が懇談会で出ていますが、5年・10年といったスパンではありませんので私は2校論でよいと思います。

(四條委員) 2校に統合された後、再び統合議論が出てくるのが明らかに予想されるのであれば、そこまでの構想を練る必要があると思います。そうなればすぐに結論を出せなくなり、年内に結論を出すという町長の意向とずれることになります。

逆にそこまで想定しないというご意見でまとまるのであれば、それに従います。

(芦澤委員) 先が見通せないからという無責任な部分ではなく、2校という結論を出した以上、何年後かに批判を受けることがあっても甘んじて受けるしかありません。

当然、個々には将来をシミュレーションして1校を考えたと思いますが、議論を尽くしての結果ですから2校という形で進めるべきだと思います。

(教育長) まずは1中学校・2小学校という大前提で具申案を組み立てたということをご理解いただきたいと思います。

このたびの小学校適正配置に関する流れの始まりは平成21年の答申にありました。そこには平成25年に検討を始めるという内容が盛り込まれていました。年度の指定があったわけです。結果的にはタイミングが合ったわけですが、教育委員会事務局には常にこのことが念頭にあったと思います。四條委員のご意見は、2校統合のさらにその先をどう考えていくべきかというご指摘ですが、将来のことをここで何年後に検討を始めるといった文言を盛り込むと難しい問題を含んできます。だからと言って検討していかないわけではなく、教育委員会と事務局が将来を見据えて不断にシミュレーションし、統合の必要性の時期を見定めて事務局が問題提起するのが望ましいと考えます。

(四條委員) 私は1年ちょっと検討委員会メンバーだったのですが、データの20年先のことは誰も知りませんでした。総合戦略の推計で初めて見たわけです。検討委員が答申をまとめるときにそれがわかっていたら、答申内容が違ったものになっていたかもしれません。

当時、万沢小学校の保護者は早期統合を希望しているという意見がありました。一方で万沢小学校保護者の代表は統合反対を表明されました。どちらが真意か測りかね、アンケートを取ることになりました。しかし、詳細条件を設定しないアンケート内容だったため、回答する側に迷いが生じたようで「よくわからない」が多かったわけです。それをどう捉えるかがはっきりしないまま、万沢でも統合賛成が多いので進めようということになりました。答申案は、10年後の児童数を想定してA地区・B地区を設定し協議されたのだと思います。

統合に反対する保護者がいる一方で実際に万沢から富河に転居して富河小学校に通わせる家庭もあり、真実は一つなのでしょうが、いろんな見解がある状況下でのアンケートからスタートしたことになります。

答申として受けた以上、それを基に検討された具申ですから尊重して反対はしません。けれども今後ここで確認されたことが大事になるので、10年先についてはシミュレーションすることもあるかもしれないけれども現状ではここまでということを進めるのであれば、これ以上意見はありません。

(教育長) 1年7か月かけて検討委員会で検討していただきました。私も様々な議論があったことを承知しています。そして最終的にA地区・B地区の区域分け、平成33年度・38年度を目途にといった統合時期設定、A地区については使用校といった具体的な具申案を策定したわけです。

今年度は、町内各区を回り懇談会を開催しましたが、参加総数は300人弱にとどまりました。しかし、4月には「小学校のこと」と題した説明小冊子を全戸配布しておりますので、これをご覧いただいたという前提で話を進めていくことになります。

これからをどう考えていったらよいか、ご意見をいただきたいと思います。

(町長) 時代の流れが速くなり、町の総合計画を見ても策定当時と今の状況の変化が著しいことがわかります。

町長として卒業・卒園式に出席した時に、あまりに子供の数が減ってしまったことに驚き、まず着手したのは富河・万沢保育所の統合でした。当然、その先には小学校の統廃合を頭に入れていました。ただし、ことを急いでは問題が生じますから時間をかけて取り組んでいただき、今日に至りました。何事にも反対意見はありますが、相対的に見て割合は低いのではないかと思います。ですから私は逆に統合時期を前倒しすることを視野に入れて検討したいと考えています。そのためには統合までの工程を検討する必要があります。

さらに、栄地区と睦合地区も何とかしたいと考え、今年度保育所の適正配置に着手しました。ただし、適正配置には多角的な視点でのバランスも必要であり、私にはそれを考えに入れた将来設計構想があります。

人数的に考えれば1小学校がよいかもかもしれませんが、あまりにも性急であり強引すぎると思っています。2小学校として富沢地区、南部地区で頑張っていたきたい。万沢では人口減少に危機感を持つ方々が万沢を盛り上げ、人口増につなげた例があります。そういった取組みを富沢地区、南部地区でもしてほしいと思います。2つの小学校を存続させるためには自分たちが頑張らなくてはいけないという思いを持っていただきたい。

(教育長) 私たちは、この具申内容を進めて行くにあたって、丁寧に説明しご理解いただくことを前提にしています。そのためにこれまで説明会・懇談会を開催し、昨年からは町内を五巡したことになります。ここで、どの程度ご理解いただけたか数値で示していく必要があるのではないかと考えます。このことについて、地域からどのような声が出たか事務局から説明してください。

(事務局) 具申書には、地域の方々に十分ご理解をいただいた上で統合することが望ましいとあります。この文言に注目が集まり、何をもちて理解されたと判断するのかというご質問を数多くいただきました。事務局としては、意向調査を実施して客観的な数字で判断する必要があると回答しました。

(教育長) 意向調査については、昨日開催した教育委員会で議論いただき、本日の資料として準備しました。

(事務局) アンケート案をご覧ください。内容は、まず回答者のお立場、お住まいの地区、懇談会参加の有無についての質問です。次にお住まいの地区における小学校の統合につ

いての同意・不同意、不同意の理由についての質問となっています。

(望月委員) 懇談会を終えたタイミングでアンケートをとるわけです。具申内容をご理解いただけたか問う必要はないでしょうか。

(教育長) 懇談会にご参加いただいた方は決して多くありませんでした。ですから4月に全戸配布した「小学校のこと」に目を通していただいたという想定の下で実施する考えです。

(入月委員) 懇談会の参加者が少ない中で全世帯にアンケートを配るということは、ほとんどの方が懇談会の内容を知らないことになります。ですから懇談会で出された意見などを紹介したらいかがでしょうか。

アンケートは経年比較、いわゆる前と後の比較が大事だと思います。前回アンケートでは「存続してほしい」、「統合した方がよい」、「どちらともいえない」の三者択一のうち、「どちらともいえない」がかなりの割合を占めていました。それと比較できる内容にする必要があるのではないのでしょうか。今回のアンケート内容は同意・不同意の二者択一でかなり乱暴ではないかと思います。統合が必要なことはわかるが地域から学校がなくなることには同意できないとか、統合するなら1校にすべきだとかいった考えを持つ方の選択肢が無くなってしまいます。また、アンケートの結果は民意として尊重されなければなりません。加えて、十分な理解を得るという条件で進められる事業ですから、アンケートの結果がそれを覆すことも想定しなければならぬと思います。これらのことを勘案して「どちらともいえない」という選択肢を設けるべきだと思います。

(教育長) 事務局は当初、同意・不同意を問うのではなく具申内容を理解いただけたか否かを問うことを考えていました。

(入月委員) そうであるなら具申内容について理解いただけたかどうかという質問内容に変えた方がよいでしょう。

アンケート結果は当然公表されるべきですし、その結果がとても重要になってきます。前回アンケートと違って具体的内容を提示しているのでも、迷いを感じる方が多いのではないかと思います。教育委員会は、その結果に誠実に答えなければなりません。

(四條委員) 個人的には、今の万沢小学校の規模では学級をベースとした教育には無理があると考えます。ですから統合しなければならぬと思うのですが、実際に保護者の方々はどうのお考えなのでしょう。現状のまま継続を希望される方が多数ならば、もっと時間をかけて話し合う必要があるのではないかと思います。

万沢小学校の様々な行事に参加しましたが、運動会や卒業式などの場面で少人数の限界を目にしてきました。全校児童で取組む教育もあるでしょうが、ベースは学年、学級です。教育に携わった者として、もう少し人数を増やさなければならぬと考えます。

アンケートについては、万沢小学校の保護者の方々のご意見を重視すべきだと思います。結果によっては前倒しでなく、逆に時間をかけて説明し納得していただくべきだと思います。

(教育長) まず文言のご指摘がありました。是非を問うのではなく、教育委員会の説明を理解いただけたか質問するよう、内容を変更することです。

次に結果として、例えば当事者である万沢小学校の保護者のご意見が反対だったらど

うするのかというご指摘です。

はじめに文言について、事務局の考えを述べてください。

(事務局) 各区の懇談会において、何をもって理解されたと判断するのかというご質問をいただき、意向調査をする旨を回答したところですので、その趣旨に沿った形としてはご理解いただけたか否か問うのが妥当だと思います。

(芦澤委員) 文言を修正してアンケートをとるということで先に進みましょう。

先程の四條委員のご意見について、小規模化の問題は4校すべてで顕在化しています。子供たちのためにどう考えるかということが一番のポイントとなります。

(教育長) アンケートについては、ここで議論いただいた内容を反映した修正を加えることといたします。

2点目ですが、四條委員のおっしゃるとおり万沢小学校の保護者のご意見は大事だと思います。仮に大勢の方が理解できないということであれば、その結果を受けて即万沢小学校に出向き、意を尽くして説明させていただきます。

(入月委員) 昨年、万沢小学校の保護者全員で学校継続を願う署名を提出しているのですが、今回のアンケートでも同様の回答が多数を占めることを想定して、万沢小学校保護者への説明が必要になると考えておいた方がよいでしょう。

万沢小学校がクローズアップされますが、もっと広い視野で考えていただくことが重要だと思います。子供のためには複式学級にならないくらいの方がよいということも万沢の皆さんにご理解いただいて、南部町の子供たちという観点で捉えていただくことが求められます。

(望月委員) 懇談会の会議録を読みますと、万沢地区以外からは統合時期を早めるべきというご意見がかなり多かったようです。また、万沢地区から施設が無くなってしまいつつあるが、町全体を見ると、それどころではないというご意見もありました。今後、広いエリアを対象に説明会が開催される予定のようですが、そういった他地域の方々のご意見を聞いていただくことも大事だと思います。

(教育長) 旧町単位で説明会を開催する予定です。アンケート、今後のスケジュール等、ご意見がありますか。

(町長) 統合は賛成だが万沢地区から小学校が無くなってしまふのは気の毒だという他地区からのご意見がありました。他地区の方々も心配しているけれども、教育環境のためには統合しなければならないということを懇切丁寧に説明して、万沢地区の皆さんにご理解いただきたいです。

万沢小学校継続を希望される方が多いことは承知していますが、町の方針に理解を示してくださるようになった方もいらっしゃいます。

保護者の理解が得られないから白紙撤回するということは許されません。廃校の利活用や通学のことなど諸々の問題については、私たちが一生懸命考えます。

(教育長) ここまでの議論をまとめます。

まず、将来的に1中学校・2小学校とする構想は崩さないこととします。

次に、懇談会を五巡してどの程度ご理解いただいたか数値で明らかにします。そこで注目すべきは、最も影響が大きい万沢小学校の保護者の意見であり、もし結果として理

解が進んでいないようであれば、さらに説明をしてご理解いただくよう努めます。

計画は、アンケートの実施、旧町単位での集会、総合教育会議などを経て12月の結論に至るスケジュールに沿って粛々と進めることとします。

(入月委員) アンケートの結果を考察して、A地区・B地区で集会をして、その結果教育委員会としての結論を出して町長に伝えるということですね。

(教育長) そうです。今後、総合教育会議を2回開催し、このテーマについて継続してご協議いただく予定です。

(芦澤委員) 影響が大である万沢小学校保護者の意向を重視することも重要ですが、これまでの取組みを考えると、万沢地区全体の結果についても大事に扱う必要があると思います。

## (2) 中高連携について

(事務局) 県が示した資料に基づくスケジュールについて概要を説明。

(教育長) 現在、県から詳細な計画は示されていません。よって町教育委員会として検討する機会が与えられていません。私たちは町教育委員会の意見が反映されないまま、切羽詰まってから条件提示されることを危惧しています。

来年5月には県としての意思を決定することです。そのためには、町教育委員会も結論を出さなければなりません。この結論を出すためには、今年11月か12月には議論を深め、町の方針を確立し、県と対応する必要があります。11月に予定している総合教育会議では町としてのスタンス及び主張を確認して、12月から2月の間に開催される予定の県の会議で条件等を詰めていくことになると思います。

県は中高連携の計画を決定したら間違いなく実施します。県教育委員会と町教育委員会は高校・中学校で管轄が違いますので、条件のすり合わせをしなければなりません。その時に町の主張をしっかりと伝えていく必要があります。共に取組む身延町とは連携を模索してきましたが、置かれている状況が微妙に違うため、まったく同じ歩調とはなっていません。よって南部町は町独自に主張していくこととなります。

こういった状況をご確認いただいて、第2回・3回の総合教育会議で議題として取り上げていきたいと思えます。

(町長) 町の主張がしっかり反映されるよう働きかけます。

教育効果を上げるための中高連携には賛成しますが、生徒の進路を縛るようなことには反対です。県には毅然とした態度で臨みます。

(教育長) 町独自の主張がありますので、ご支援願います。中学校は町単独で教員を配置していただいているので辛うじて対応できていますが、制度化されるのであれば現状の人的配備では不可能です。

(町長) 中学校には町単教員を手厚く配置しています。今以上の配置は難しいですからしっかりと訴えていきます。

(芦澤委員) 県は高校教育課と義務教育課の連携が見られません。今後も改善される見通しが立たない中、側面からご支援ください。

(町長) 町の現状をしっかりと県に伝えることで状況が変わった事例があります。

(教育長) 町長を先頭に教育委員が県に出向くことを町長に要請するかもしれません。よろしく願いいたします。

(町長) わかりました。教育委員会としての意見をまとめておいてください。

(教育長) 8月21日に県教育委員会が来庁しますので、説明を聞きながら町の意見を伝え、次につなげていきたいと思います。

(四條委員) 先日、高校からの数学アシスト授業を参観しましたが、教育効果が望めるものではありませんでした。生徒がわからないところがはっきりしているのに、そこに目が行っていませんでした。

(入月委員) 後で聞きましたら、高校で間違いやすい問題を取り上げた授業だったそうです。確かにそのとおりの内容でしたから、その点は評価できるかもしれません。

(教育長) それでは、中高連携についてはスケジュールに沿って取組むということで次に進めさせていただきます。

### (3) その他

(事務局) 8月1日開催のアルカディア文化館開館20周年事業について概要を説明。

(教育長) 早いもので20周年です。盛大に開催しましょう。

(教育長) 本日は非常に重いテーマについて議論していただきました。議論を尽くしながら一つにまとまって教育行政を進めて行きたいと思います。ありがとうございました。

## 5 閉会 芦澤和彦委員

活発なご議論をいただきました。忙しい中、結論を出さなければならないことがいくつかあるわけですが、皆様には健康に留意していただきながら乗り切っていただきたいと思います。今日のご苦勞様でした。以上で終わります。